

【1】 高島プログラムに基づく具体的な取組

(1) 共同授業研究システムについて

中学校3年生の道徳、中学校1年生の社会科、西小学校5年生の理科、東小学校6年生の算数科、東小学校1年生の国語科と、5回にわたる共同授業研究会を実施した。教職員を3班編成にし、班に所属するメンバーの授業に関わって、事前研究会を実施した。事前研究会では、全学年が単学級である本地区において、西小と東小の教職員がともに教材研究することのできる貴重な機会となった。授業と研究会については原則全員参加とした。こども園の教職員も参加し、各学校の授業交流と授業改善研究、さらには児童生徒理解につながった。



東小6年 算数科研究授業



中3道徳 グループ話し合い



西小での授業研究会

(2) 小学校の教科担任制について

東小学校6年生の算数科では、中学校での数学科学習につなげる上で、特に重要となる単元(円の面積、比例と反比例、文字を使った式)に絞ってTT形式での授業を実施した。中学校数学科教員がT1となって授業を進めることにより、中学校での授業スタイルに慣れることができ、名前を覚えてもらい、呼んでもらえることにより、中学校進学への不安軽減につながった。また、TT形式での授業実施により、他の単元に比べて単元のまとめテストの正答率が上がった。中学校教員にとっては、来年度に進学してくる児童の学力や個性を知る機会となり、スムーズに受け入れられるきっかけとなった。

今年度新たな取組として、東小学校5年生の算数科「割合」でもTT授業を実施することができた。児童にとってはすんなり理解することが難しい単元であるが、中学校教員の専門的な指導を受けることによってスムーズに理解することができていた。



6年生「文字を使った式」授業

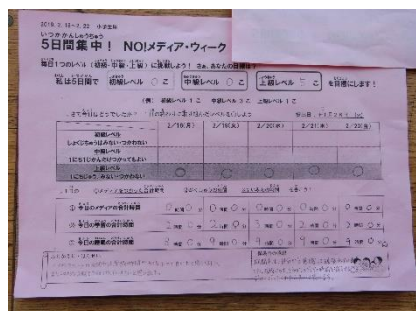


5年生「割合」TT指導

(3) 学習環境づくりに向けた取組について

毎学期の中学校の定期考査前に合わせて、一週間の「NO!メディアウィーク」を実施した。事前に自己目標を設定した上で取り組み、実施後には本人と保護者からの振り返り提出を求めている。学習時間の確保や家族との会話時間の増加につながったというコメントが多数あった。

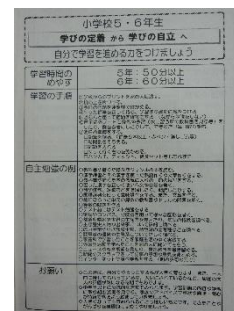
「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、10分×学年の家庭学習を目安に取り組めるようにと知らせた。また、2学期の個別懇談会では各個人の学習習熟度に合わせた自主学習の内容を提案し、学校と家庭とが協力しながら学力向上を目指す機会とした。



NO!メディアウィークシート（3種類）



家庭学習の手引き



【2】平成30年度朽木中学校区の「NEXT ONE」

(1) 特色ある取組

- ・6月2日（土）に小中合同スポーツデー（小中合同体育祭・運動会）を実施した。西小学校全児童4名も競技に参加し、朽木音頭保存会、朽木支所職員、日赤奉仕団の皆さんの協力を得て、99名の児童・生徒が一堂に会した行事となった。
- ・東小学校児童が、こども園運動会でボランティアとして参加した。
- ・小4と中1、小5と中2、小6と中3の組み合わせでBUT（ビルドアップタイム）を行った。算数科の基礎問題を解く時に中学生が丸付けをしったり教えたりする前半、小中学生が協力しながら応用問題を解く後半というスタイルで行った。



市内初の小中合同スポーツデー



小学生ボランティアの活躍



BUT（ビルドアップタイム）

(2) 成果と課題

スポーツデーに関しては、小学校・中学校で総括を行った。学校評価アンケートで得た保護者からの意見を生かすために、来年度のスポーツデーでは種目を一部変更したり、生徒会と児童会との話し合いを複数回実施したりすることで共通理解を図った。こども園運動会では、今まで中学生がボランティア活動を行っていたが、中学校文化祭と重なったこともあり、初めて小学生が参加した。園児に関わり、こども園の先生方から感謝されたことで、自己有効感を高める機会となった。BUTに関しては、小学生の学力アップの取組となっていたが、中学生にとっての意義を問う声が上がった。今後は、中学生にとってもメリットのある異学年交流・学び合いの場となる内容を設定していかなければならない。

3 次年度の構想

- (1) キャリア教育の視点で、こども園から中学校までの目標とする姿や学びの計画をまとめて、発達段階に応じた活動を共有設定する。
- (2) こども園、西小学校、東小学校、中学校それぞれの交流活動を計画的に確実に実施する。
- (3) 各部会を再編成することによって、「小中一貫」「コミュニティスクール」「学び合い」の観点で、部会の活動を活性化させる。